新年を迎えて

しずない農業協同組合　会長理事　西村和夫

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

組合員の皆様には、御家族ともどもご健勝で新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。日頃より当組合の事業運営に対し、ご協力とご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は2月に日経平均株価がバブル期の1989年12月29日に付けた終値の史上最高値3万8915円を超え、3月には平成28年から行われていたマイナス金利政策が解除されました。また、令和6年春闘でも平均賃上げ率は5．33％と高水準の賃上げが相次ぎ、特に円安・ドル高やインバウンドの増加などを追い風にした企業の業績が堅調に推移しました。

そういった状況もありながら、農業分野におきましては昨今の物価高の煽りを受け、肥料・燃油・飼料などの農業資材は高止まりのままであり、夏場の高温多湿の影響は大きく、苦労の絶えない1年となりました。

昨年の農作物の状況としまして、当組合の基幹作物の1つであるミニトマトについては、年間を通して単価高ではありましたが、特に抑制作において、曇天と猛暑による花落ちや小玉傾向の影響を大きく受け、収量減となりました。

取扱金額は8億7千万円となり、青果全体では9億5千万円となりました。

なお、本年は1組の新規就農者の参入が予定されております。

水稲は日高管内の作況指数で102の「やや良」でありました。収量は平年並みではありましたが、胴割れを始めとする被害粒も少なく、低蛋白で高品質な米を出荷することが出来ました。令和6年産万馬券については1831俵を買い入れ、しずない農業まつり以降からAコープ静内店にて店頭販売を開始し、業務向け納品を中心に新規取引の注文が集まっています。

また、上川大雪酒造、川端総杜氏と若山杜氏から高い評価を受けている、静内産米「彗星」から造る、地酒　純米吟醸酒「海桜丸」は、5年目を迎えております。上川大雪酒造では、原料となる酒米の品質に拘り酒造りを行います。その酒米本来の品質と、生産農家の米づくりの考え方を重要として酒造りを行い、毎年「飲み口の良い」出来栄えとなっております。新酒の発売を待ちわびているリピーターのお客様も増えています。是非一度その味わいをご堪能いただきたいと思います。新酒については本年も4月末頃の販売を予定しております。

黒毛和牛については、ホクレン南北海道市場の素牛平均購買価格は去勢で61万円、メスで49万円と、前年比較で5万円程度の安値で推移しており、当組合の年間の販売金額は4億2千万円程度と前年の4億9千万円程度より7千万円減少しております。素牛市場の低迷を受け黒毛素牛のセーフティネットである肉用子牛生産者補給金制度が北海道を含め、全国的に発動しており、肥育牛におけるセーフティネットである肉用牛肥育経営安定交付金についても、ここ数年発動が続いております。高水準の賃上げが行われてはおりますが、それ以上の急激な物価上昇を受け、消費者の生活防衛の意識もあり、黒毛和牛肉の消費が一段と低迷しております。このような状況でありますが、今後とも購買者のニーズに答え、より良い素牛を出荷できるよう高齢牛の淘汰更新を積極的に進め、優良母系牛群の形成を進めていきます。

また、酪農については夏の猛暑の影響も懸念されましたが、静内全体の乳量は、ほぼ計画通りで推移しており、販売金額は3億4千万円の取扱い実績でした。ホルスタインや交雑種の初生子牛につきましては引き続き安価な状況が続いております。

基幹産業である軽種馬については、昨年の市場販売頭数及び販売